

木更津工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国文学
科目基礎情報					
科目番号	g0700		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	プリントを配布する。				
担当教員	加田 謙一郎				
到達目標					
①初歩的な漢文の書き下し文を読解できる。また初歩的な漢文に関して、書き下し文を作成することができる。 ②空海の文芸作品の特徴を指摘できる。また空海の思想の特徴を理解し、指摘できる。 ③中古国文学における漢詩文の位置付けができる。また平安初期の歴史の流れを理解し、簡明に述べることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	初歩的な漢文の書き下し文を読解できる。また初歩的な漢文に関して、書き下し文を作成することができる。		初歩的な漢文の書き下し文を読解できる。		初歩的な漢文の書き下し文を読解できない。
評価項目2	空海の文芸作品の特徴を指摘できる。また空海の思想の特徴を理解し、指摘できる。		空海の文芸作品の特徴を指摘できる。		空海の文芸作品の特徴を指摘できない。
評価項目3	中古国文学における漢詩文の位置付けができる。また平安初期の歴史の流れを理解し、簡明に述べることができる。		中古国文学における漢詩文の位置付けができる。		中古国文学における漢詩文の位置付けができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	空海に関する様々な漢文テキストを読解し、当時の歴史なども視野に入れて、現代への合わせ鏡としての「空海の思想」に対して自分の意見を持つことを目標とする。 空海の残した漢文を読み解くことによって、ものの捉え方、感じ方、考え方を深め、ぜひ自らの問いを発見してほしい。				
授業の進め方・方法	①プリントを使って授業を行う。配布するプリントは必ずファイルし、復習できるようにすること。また、授業内容はしっかりとメモを取ること。 ②授業のなかで課題を提示し、小レポートを課す。授業内容のポイントを押さえるためにしっかりと取り組むこと。この小レポートも成績に反映されるので、未提出がないように気をつけること。また質問があれば、ささいなことでも必ず書くこと。 ③小レポートの講評と解説、質問への回答も行うので、レポートには積極的に取り組むこと。 ④中間試験は行わず、前期期末にレポートを課す。				
注意点	授業内容を通して、自分自身の振り返りをしてほしいと考える。漢文の学習からは離れるが、そのための作文方法等にも随時触れる。 漢文を単に昔の文章と捉えて読み流すのではなく、その読書体験をきっかけにして、自らの感覚を研ぎ澄まし、思考を深めることを心掛けてほしい。 なお、欠課時数が1/3を超えた場合は基本的に年度内再評価は認めない。				
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の進め方、レポートの取り組み方等を把握する。また、自分自身を振り返る契機としての作文方を理解する。(MCC)	
		2週	「秋の日、神泉苑を観る」(1)	京都の名所神泉苑を歌った漢詩に触れ、その歴史的な変遷を理解する。(MCC)	
		3週	「秋の日、神泉苑を観る」(2)	空海の自然観の一端を理解する。(MCC)	
		4週	「雨を喜ぶ歌」	雨乞いの際に歌われた漢詩に触れ、当時の人々の「雨」に対する意識を理解する。(MCC)	
		5週	「山中に何の楽しみか有る」	空海の思想(密教)の基礎に触れ、その要点を理解できる。(MCC)	
		6週	「徒に球を懐く」	空海の思想(密教)の基礎に触れ、その要点を自分の言葉で述べることができる。(MCC)	
		7週	自分自身のありようを振り返り、「曼荼羅」を作成する。	自分自身の興味の広がりを「曼荼羅」として作成する(図解化する)。(MCC)	
		8週	振り返り(1)	前回まで学んだ内容から、特に興味を持ったことに関して、800字程度の作文を書くことができる。(MCC)	
	2ndQ	9週	「綜芸種智院の式 并に序」(1)	日本最古の庶民の学校「綜芸種智院」を開いた空海の言葉に触れ、すべての者が学ぶことの意義について考えを深める。(MCC)	
		10週	「綜芸種智院の式 并に序」(2)	同上。読みを進めることができる。(MCC)	
		11週	「綜芸種智院の式 并に序」(3)	同上。読みを進めることができる。(MCC)	
		12週	「綜芸種智院の式 并に序」(4)	すべての者が学ぶことの意義について考えたことを、1200字程度の作文を書くことができる。(MCC)	
		13週	「筆を奉獻する表」「東宮に筆を献ずる啓」	テクノクラートでもあった空海の、理工系的文章を読み、その形を身につける。(MCC)	

		14週	「元興寺の僧中環が罪を赦されんことを請ふ表」	非寛容の現代から、為政者へ寛容を説く空海の論理に触れ、現代社会を捉えなおすことができる。（MCC）
		15週	振り返り（２）	前回まで学んだ内容から、特に興味を持ったことに関して、A4用紙2枚程度のレポートにまとめることができる。（MCC）
		16週	レポート作成	空海思想について、前回の作業を継続し、レポートを完成させる。（MCC）

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0